

米軍横田基地の軍民共用化に反対する陳情書

瑞 穂 町

瑞穂町議会

米軍横田基地の軍民共用化に反対する陳情書

横田基地は、1940年旧陸軍多摩飛行場として設置されました。終戦後、米軍基地となりましたが、数度の拡張がなされ、現在は滑走路が瑞穂町の中心部を挟るように伸びております。

このため、瑞穂町民は常に航空機の騒音に悩まされるとともに、何時起こるとも知れぬ航空機事故に不安な日々を送っております。また、飛行直下に位置する当町は、建築物の高度制限など土地利用上の制約もあり、町の発展を大きく阻害されております。しかしながら、基地は世界平和と日本の安全のための施設であるとして、これまで耐え忍んでまいりました。

このような中、2006年5月1日に最終報告された「在日米軍再編実施のための日米ロードマップ」では、横田飛行場のあり得べき軍民共同使用の具体的な条件や態様に関する検討を実施し、開始から12か月以内に終了するとされました。その検討を実施する「スタディ・グループ」が2006年10月12日に開催されて以来、現在まで8回開催されておりますが、瑞穂町へ何の説明もないまま進められていることに強い憤りを覚えるものであります。

さらには、この検討結果が公表されることなく、2007年9月7日の日米外相会談、同8日の日米首脳会談で、軍民共用化に向けた協力を米国に求めたことは、瑞穂町民の心情を一顧だにしないものであり、このまま、経済性と利便性のみを追求した軍民共用化を推進すれば、基地そのものに対する反対運動が起こることも予想されます。

貴職におかれましては、当町がおかれている耐えがたい実情をご賢察のうえ、特段のご配慮をいただきたく陳情いたします。

駐日米国大使

ジョン・トーマス・シーファー 閣下

2007年10月10日

東京都西多摩郡瑞穂町
町長 石塚 幸右衛門

瑞穂町議会
議長 尾 作 武 夫

瑞穂町議会基地対策特別委員会
委員長 上 野 勝